

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況			評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
使命1 横浜市北部地域の子どもや高齢者、障害者、外国人、様々な経済事情にある方、性別にかかわらず幅広い属性の方へ、社会的包摂の視点を踏まえ、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育むとともに、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。	1 高齢者が文化芸術活動に参加し扱い手となる取り組み	●高齢者(65歳以上)や認知症の方を対象にした事業	1回	実施 B	■若年性認知症介護サービス会社GrASPや横浜市荏田地域ケアプラザの協力により「対話型鑑賞会」を実施し、認知症の方とその家族や介護者が来館し鑑賞。 □対話型鑑賞会開催 ・トライアル鑑賞会(共催 横浜市荏田地域ケアプラザ) ・若年性認知症とその家族・介護者のための鑑賞会(協力GrASP㈱)		【評価できる点】 ・新型コロナウイルス感染症の影響に対応しながら幅広い世代に向けて計画通りに事業を実施しました。時勢に応じ予約制にて参加人数を考慮するなど、安心して活動や鑑賞ができるよう市民へ文化芸術の鑑賞機会の場を安定して提供した点を評価します。 ・子ども向けプログラムは、フリーゾーン、子どものためのプログラム、ファミリーワークショップ、横浜市芸術文化教育プラットフォーム全てにおいて、目標回数を実施することができ、展示来場者数は目標300人に対し830人の来場に繋がりました。 また、近隣小学校に出向いて実施する小学校カメラ写真ワークショップは、目標を超える延べ14回実施し、横浜市芸術文化プラットフォームも目標を超える5校で実施でき、合わせて延べ1,195名多くの児童が参加できました。 ・これまで課題であった高齢者及び外国人向けのアプローチについて、地域で活動する団体の協力のもとに新たなプログラムを実施できたことは今後の可能性に繋がりました。 ・ホームページのリニューアルにより、ウェブアクセシビリティに準拠し、スマートフォンからもアクセスしやすいサイトに変わり、利便性が向上しました。 ・障がいのある方を対象とした事業では、感染症防止対策を行なながら柔軟に対応し、造形活動による学校支援では、目標200人に対し308人の児童へ造形活動の場の提供がされました。また、フェローアートギャラリー、フェローアートギャラリーエクステンションも予定通りに実施でき、障がい者の芸術活動の場をつくり、支援したこと評価します。 ・幅広い演奏団体を迎えて実施したエントランスでのロビーコンサートでは、予定通り年間9回実施し、目標600人に対し1,218人の来場に繋がったほか、新たにロビーピアノとして一般開放する時間帯を設け、利用の幅が広がりました。	
		●在住外国人ファミリー支援団体と協働し、事業に参加しやすい仕組みを模索						
	2 在住外国人の方々が来館しやすい仕組みを充実	□ヒアリングの実施	1回	実施 B	□外国人親子のためのフリーゾーン開催 ■参加者へのアンケート実施 1回			
		□外国人親子向けフリーゾーン開催	1回 30名	実施 B	■運営協力団体への事後ヒアリング実施 1回 ■やさしい日本語・英語の2種類のちらしを作成 ■やさしい日本語・英語の2種類の紹介動画を作成しYouTubeで公開			
		■親子のフリーゾーンの英語ちらし作成		作成 -				
		●市民のためのプログラム=使命2に記載 ●あざみ野カレッジ開催 ※うち1回は大佛次郎記念館と連携						
	3 幅広い市民の皆様の「やってみたい！」を応援	□文化芸術部門	4回	4回実施 B	□あざみ野カレッジ「文化芸術部門」年4回 計148名 ・4/17 「聞くとは何か 他者の話が聞けなくなるとき」 講師 東畠開人 64名 ※大佛次郎記念館共催 ・7/23 美術史講座「ピュサンヌ・ヴァラドン 19世紀末から20世紀初頭のパリに誕生した女性画家」 講師 沼田英子 31名 ・10/29 「ルース・アサワの芸術」 講師 沢山達 27名 ・12/20 「女性画家たちの戦争」 講師 吉良智子 26名 ※男女共同参画センター横浜北共催		課題であった高齢者、外国人の方々へのアプローチについては、昨年度から活動が実を結び地域で活動する団体などからの協力をもより認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会、「外国人親子のためのフリーゾーン」の実現に漕ぎつけました。次年度も地域との連携をより密なものとしフラッシュアップしたプログラムを提案していきます。 あざみ野カレッジでは「大佛次郎記念館」「男女共同参画センター横浜北」との共催もあり、多種多様な示唆に富む内容のプログラムを提供できました。 また、オンラインを併用しプログラム提供の可能性の幅を拓げることができました。 広報面では、8月にホームページのリニューアルによって、ウェブアクセシビリティ適合レベルに準拠し、スマートフォンにも対応できる仕様変更を行い、よりアクセスしやすいサイトになりました。	・ホームページのリニューアルにより、ウェブアクセシビリティに準拠し、スマートフォンからもアクセスしやすいサイトに変わり、利便性が向上しました。 ・障がいのある方を対象とした事業では、感染症防止対策を行なながら柔軟に対応し、造形活動による学校支援では、目標200人に対し308人の児童へ造形活動の場の提供がされました。また、フェローアートギャラリー、フェローアートギャラリーエクステンションも予定通りに実施でき、障がい者の芸術活動の場をつくり、支援したこと評価します。 ・幅広い演奏団体を迎えて実施したエントランスでのロビーコンサートでは、予定通り年間9回実施し、目標600人に対し1,218人の来場に繋がったほか、新たにロビーピアノとして一般開放する時間帯を設け、利用の幅が広がりました。
		□地域資源部門	3回	3回実施 B	□あざみ野カレッジ「地域資源部門」年3回 計79名 ・9/11 「アナログレコードで聴くエストコースト・ジャズ名盤」 講師 渋谷清 30名 ・9/24 「横浜北部のニュータウン開発と鉄道」 講師 平井誠二 28名 ・12/23 「あざみ野フォト・アニマル関連企画 ステレオ写真探訪」 講師 日比谷安希子 21名 (うちオンラインによる参加6名)			
		□年間参加者数	210名	227名 B				
	4 アートで子どもの情操や共感能力を育てる	●企画展「あざみ野こどもぎゃらりい2022」開催	1回	実施 B	□「あざみ野こどもぎゃらりい2022 ぞうけいらぼ」739組／2,486名 ・7/29-8/7 展示室をアートの研究開発所「ボラトリー」に見立ててアートなジュースづくり」「カラーテープでかべにお絵かき」「おさんぽお絵かき」「紙テープでジャンブルづくり」を、子どもたちが研究員となつて参加。 ■「みるラボ」コーナーでアニメーション作家ささきえりさんの映像作品を展示 ■アートサポーターの参加 のべ21名 ■入場予約制システムの導入 ■関連企画「あざみ野ダンス・ラボ」を開催し、夏休みならではの賑やかさとダンスを通じて表現の多様さを提示する場となった。 参加者合計120名 ・親子でK-POPを踊ってみよう 10組21名 ・中高生コンテンポラリーダンス体験 9名 ・姿勢教室 22名 ・中高生HIP-HOP 5名 ・あざみ野☆ナイ ダンスパフォーマンス 観覧者 63名 ※赤レンガ1号館共催		日曜午前の無料コンサートであるロビーコンサートについては、センター北の折半負担がなくなったための単独開催が続き予算的には厳しいものの、クラシックやJAZZ、地域の太鼓演奏団体などを招き、9回開催しました。	
		□来場者数	1,000名	2349名 A				
		●小学校カメラ写真ワークショップ	1回	9回 (のべ14回) A	□ワークショップ (のべ14回)開催 近隣小学校2校に出張し5年生に写真のワークショップを開催 ・2校(山内小学校5年生、慶應義塾横浜初等部5年生) ・参加児童数 233名			
		□ワークショップ	1校	2校 A	□展示「写真と俳句展～小学校5年生たちのまなざし」来場者 830名 1回 7/29-8/7 「あざみ野こどもぎゃらりい」期間に合わせて写真ワークショップの成果展として、子どもが撮影した写真に自作の俳句を添えた作品を展示 「よこはま縁むすび講中による事業」			
		□成果の展示「写真と俳句」	1回	実施 B				
		□展示来場者数	300名	830名 A				
		●予約制だよ！親子のフリーゾーン			□予約制だよ！親子のフリーゾーン 月3回 計36回開催 参加者数 399組1,362名参加 □平均満足度 4.92(5点満点) ■コロナ感染症予防のため予約制による定員制を継続。 上期は「道具を共有しない」「テーブルを分ける」ルールで開催。			
		□年間延べ参加者数	1,440名	1,362名 B				
		□創作の場提供	年36回	36回実施 B				
		●子どもまたは家族のためのプログラム						

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

		□造形プログラム開催	年13講座	13講座実施	B	□子どものためのプログラム 計13回開催 ■子ども向け造形プログラム 10講座 146名、のべ191名 ■あざみ野ファミリーワークショップ 3講座4回 131名 小学生以下の子どもと保護者対象のワークショップ	
		□参加者数	224名	322名	A		
		●横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業				□横浜市芸術文化プラットフォーム 5校実施 ・荏田小(3年生2クラス 62名) 12/7,14 山田佐映子/ダンボールアート ・つづじが丘小(2年生3クラス、のべ168名) 12/8,15,16 川崎和美/ダンボールアート ・すみれが丘小(6年生2クラス、のべ150名) 7/6,7,8 山田裕介/リサイクルアート※ ・新羽小個別支援級(のべ60名) 1/20,26,2/2 平多理恵子/ダンス ・山内小(3年生4クラス、のべ372名) 2/15,17,24 南條健吾/コンテンポラリーダンス ※資材協力:古河電工パワーシステムズ株式会社	
		□コーディネート校数及び参加者数	4校 250名	5校実施 962名	A		
5 障がいのある方を対象とした事業		●親子で造形ピクニック				□親子で造形ピクニック 年間12回 参加者数:50組166名 (個別支援学級や特別支援学校に通う親子が対象)	
		□個別支援級等に通う子どもとその家族対象の造形活動開催	月1回(年12回) 300名	12回実施 166名	C		
		●学校のためのプログラム				□造形活動による学校支援「アトリエ学校利用」 年間10校11回開催 参加者数:308名 個別支援学級や特別支援学校の、学校単位での造形体験の場としてアトリエを提供。40名を超える場合は2回に分けて感染症防止対策を行い開催。 ■青葉区小学校校長会でアトリエ学校利用について事業紹介 ■北部4区小学校および市内特別支援学校への案内により21校から応募あり	
		□造形活動による特別支援学校等を対象にした造形活動の場の提供	10校 200名	10校実施 308名	A		
		■学校ポストによる広報・公募		実施	実施	-	
6 施設を訪れたすべての方々にアートの息吹を		●企画展「あざみ野コンテンポラリー」VOL.13=使命2に記載					
		●企画展「あざみ野フォト・ニュアル2023」=使命2に記載					
		●Showcase Gallery					
		□エントランスロビーでの展示	3回	3回実施	B	□Showcase Gallery(小展示) 3回開催 1Fエントランス 1Fエントランスで行なシリーーズ小展示。当館の特色にフォーカスしたテーマで開催 ・アーティスト×横浜市所蔵カメラ写真コレクション 白井晴幸展 7/23-9/19 ・黄金町エリアマネジメントセンター連携企画 瀬健太郎展 9/24-12/11 ・シリーズ陶の表現 茂田真史展 1/7-3/19	
		□ショーケースギャラリーの準備段階・作家インタビューをYoutubeで配信	3本	3回実施	B		
		■黄金町エリア・マネジメントとの連携	実施	実施	-	□展示作業のようすとアーティストインタビューの動画をYouTubeで配信 3本	
		●フェローアートギャラリー				□フェローアートギャラリー 3回開催 2Fロビー 今年度より日照が強い夏季は、エクステンションとして他施設で展開 ・小河原由紀子 4/27-6/26 ・Atelier Sunoiro 9/28-11/27o ・毛利秀勝 2/1-3/26	
		□障がいのあるアーティストの作品を2Fラウンジで展示	3回	3回実施	B		
		■フェローアートギャラリー・エクステンション(他施設でのアート展示)の検討・調整		実施	-		
		●WELCOME！ロビーコンサート！				□Welcome！ロビーコンサート 1Fエントランスロビー 年9回開催 来場者数 計1,218名 横浜市民広間演奏会メンバーや都筑太鼓などによる無料の演奏会を開催。ガイドラインに定めたアクティングエリアからの距離を保ち新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施 ※10/23は特別版としてチャーチルームで開催 ■男女共同参画センター横浜北と共催 ※7/10, 3/12 フィアホール共催事業 ※9/11, 10/28 横濱ジャズブルムナード連携事業 ※10/23 横浜みなとみらいホール協力事業 □あざみ野ロビーピアノ・プロジェクト ・新たな試みとして、12月からロビーコンサートで使用しているグランドピアノを毎日曜日17:00-19:30にどなたでも弾ける「ロビーピアノ」として開放	
		□エントランスでの無料コンサート開催	9回 600名	9回実施 1,218名	A		
		●情報発信の充実					
		■スマホ対応を中心にウェブサイトのリニューアル	実施	実施	-	■8月にホームページのアクセシビリティ対応およびスマホ対応改修 が完了し新サイトオープン □「アートあざみ野」3回発行(5月、9月、1月)	
		□情報誌「アートあざみ野」発行	年3回	3回発行	B		
		■主催事業、イベント、周辺施設の出来事をSNSで紹介		実施	-	■Twitter、Facebook、Instagramを広報に活用	

【課題】

昨年度に引き続き、フリーゾーンや子どものためのプログラム(ワークショップやファミリーワークショップ)は、毎回倍率が7-10倍になるほどの人気があり、参加を希望する方全員に参加していただけない状況が続いている。感染症の状況との兼ね合いで、定員増を検討していかないと考えます。

今年度実現した「認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会」をより充実したものと多くの方に提供できるよう、引き続き地域との連携を丁寧に構築していく必要があります。合わせて助成金の獲得により事業の継続を目指します。

【更なる取組を期待する点】

・幅広い市民に向けた事業や芸術文化教育プラットフォームにおいて、継続している地元企業等との連携を絶やすことなく、次年度以降も状況に合わせ、地元企業等との連携の深化、アートリーチの強化により、文化芸術を核として、引き続き地域活性化に資する活動を行ふことを期待します。

・高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取組み」及び「在住外国人の方々が来館しやすい仕組みの充実」については、今年度の取組を踏まえ、次年度以降も内容を向上し進めていくことを期待します。

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		
1 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの活用	使命2 市内外に向けて、カメラ・写真コレクションを活かした映像分野の拠点となるとともに、現代のアートの発信拠点となる。また、多様な美術分野(新旧含めた多様な時代、平面・立体・版画や陶芸等の様々な技法等)への様々なアプローチを用意することで、美術に対する関心を喚起する機会を創出し、北部地域の文化活動人口(文化活動支援者も含む)の増加に貢献する。	●企画展「あざみ野フォト・アニュアル2023」 □開催		1回 実施 B	□あざみ野フォト・アニュアル2023 1/28-2/26 ・企画展「潮田登久子 写真展 永遠のレッスン」 □来場者数: 6,279名 □平均満足度: 4.8(5点満点) ■企画展では静物を中心端正なモノクロ写真を撮影する写真家、潮田登久子の個展を開催。代表作「冷蔵庫/ICE BOX」のほか、家族が生活した世田谷の洋館で撮影された「マイハズバンド」など途切れることなく継続した作品約130点を展示。 ■会期中パンフレットを来場者へ無料配布。また「冷蔵庫/ICE BOX」ほか5種の写真集を会場で販売。合計140冊の売上。 ■コレクション展では撮影者と被写体、カメラに内在する距離に関する機構など、写真にまつわるさまざまな「距離」をキーワードに、写真技術の発展と写真表現の関係を探った。 【関連事業】(企画展) ○アーティストトーク 聞き手 佐藤直子(担当学芸員) 58名 1/28 □ギャラリートーク 佐藤直子(担当学芸員) 35名 2/23 ○対談 潮田登久子×光田ゆり(美術評論家) 62名 2/26 【関連事業】(コレクション展) ○ワークショップ「あなたのカメラのレンズ活用術」 12名 2/18 講師 牧野智晃(写真家) □ギャラリートーク 日比谷安希子(担当学芸員) 20名 2/23 ○あざみ野カレッジ「ステレオ写真探訪」 21名(うちオンライン参加6名) 2/11 講師 日比谷安希子(担当学芸員)	【成果】 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションを軸に据え、横浜の映像分野の拠点としての継続的な発信を行いました。 「あざみ野フォト・アニュアル2023」では、「潮田登久子写真展 永遠のレッスン」と「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展 写真をめぐる距離」を開催し、目標数の4倍以上の6,000名超の来場者がありました。また、各媒体で多く取り上げられる注目の展示となり、横浜からの映像文化の発信を印象づける企画となりました。 当館の特色である現代アートへのアプローチについては「CLOTH × OVER 糸と布 日常と生を繋ぐ」を開催し、糸と布を素材として「縫い」「織り」「刺繍」「染め」などのプロセスを通じて制作を続けるアーティストたちによる作品を紹介しました。身近な素材を用いながら、日常の機微、労働や手仕事の視点、ひいては生産と消滅の循環について、アーティスト3者3様のクロスオーバーする表現を、来場者に楽しんでいただきました。 エントランスで行う「ショーケースギャラリー」では、3つのテーマを設け、同時代を生きる若手アーティストに依頼し、それぞれ「カメラ・写真コレクション」「黄金町エリアマネジメントとの連携」「陶芸」と当館の特色にフォーカスする作品が並び多くの来館者に楽しんでいただきました。 アーティストやその作品についてより理解や関心を深めらるために、アーティスト自身のことばで語り、伝えることは極めて有効です。企画展の関連イベントとして、アーティストトークや対話を開催し、興味と感心をひらく機会を提供しました。また、当館で展示を行ったアーティストのインタビュー動画をWEB上にアーカイブしており、今年度も企画展、ショーケースギャラリーの作家に加えあざみ野ダンス・ラボのダンサーたちのインタビュー8本をYouTubeで公開中です。 市民向け講座は、横浜市のガイドラインに沿って人数や換気に留意し、全講座予定通り開講しました。コロナ以降開催ができなかったヌード・クロッキー講座についても下期に再開が叶いました。 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションについては、日常的な維持管理と調査研究に取り組むほか、データベースのWEB公開を行っています。令和4年度末の閲覧件数は5,639件です。ホームページのリニューアルの効果もあり大きな数字を伸ばすことが出来ました。	【評価できる点】 ・「あざみ野フォト・アニュアル」は、コロナ禍の状況の中、目標を上回る6,000人を超える来場者があり、各種メディアにも取り上げられるなど人気の高さがうかがえ、映像文化が広く市民に発信できた企画となつたことを評価します。 ・市民向け講座は、コロナ禍でのガイドラインに沿いながら、全講座実施することができました。 ・企画展の関連イベントとしてアーティストトークや対談を開催することで、展示作品との効果的な連動が生まれました。 ・WEB上で幅広い世代の方へ事業内容等が閲覧できるよう、展示を行ったアーティストのインタビュー動画や横浜市所蔵カメラ・写真コレクションのデータベースのWEB公開を実施し、ホームページのリニューアルもした結果、閲覧件数が目標件数の約5倍にあたる5,639件へと伸びました。 ・あざみ野コンテンツボラリー作品展では、身近な素材である糸と布を題材に制作を続けるアーティストたちによる作品を紹介することで、「縫い」「織り」「刺繡」「染め」などのプロセスを通じて表現する現代アートへのアプローチに繋がる企画展となりました。
		●カメラコレクション関連講座(あざみ野カレッジ内)	1回 30名	1回実施 21名 C	□7/27「教師のためのプログラム」アニメーション・ワークショップ 対面1回 27名 オンライン1回 21名 合計48名 講師 布山タルト ※横浜市教育委員会と共同主催		
		●小学校写真カメラワークショップ=使命1に記載			□1/21横浜市立中学校アニメーションフェスティバル 上映会 出品校10校 会場: 市庁舎アトリウム ※横浜市教育委員会・横浜市立中学校教育研究会美術部会、横浜市立学校総合文化祭実行委員会との共同主催		
		○教師のためのプログラム ※横浜市教育委員会共催					
		□教師のためのアニメーション制作プログラム ワークショップ	1回 50名	1回実施 48名 B	■収蔵作品の状態確認・調査・整備の実施、不正確な目録を調査、補完して修正。 ■閲覧件数 5,639件 ■データベース整備 隨時 ■経常的な作品の状態確認、修復の実施		
		□横浜市立中学校アニメーションフェスティバルについて調整・助言	1回	実施 B	■収蔵環境の調査を実施 ■外部からの貸出、熟質について対応 ■町田市国際版画美術館の10/8-12/11企画展「版画×写真 1839-1900」に当館所蔵品51点を貸出し「協力」のクレジット □情報誌「アートあざみ野」「Gallery on the Magazine」としてコレクション紹介の記事連載 年3回		
		●カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開	実施	実施	■Gallery in the Lobby (小展示) 年4回展示 ・カメラのしくみ 5/7-5/29 ・あのメーカーとカメラをつくる 10/1-10/23 ・ディスクカメラ 10/26-11/13 ・カメラ・フィルムのキャンベーングッズ 3/4-3/23		
		□ホームページ内紹介ページ・コレクションデータベース閲覧件数	1,100件	5,639 A	■城西国際大学からの展示解説データ提供受		
		●Gallery in the Lobby	4回	4回実施 B	■城西国際大学美術アート学部アート情報学科ユーニバーシティの 学生によるiPadでの説明データ提供受け ■東京都写真美術館、日本カメラ博物館、横浜美術館などの専門機関 とは日常的に連携し、コレクションの管理等について情報交換 ■カメラ・写真コレクションの英語版データベースの運営		
		■城西国際大学からの展示解説データ提供受	実施	実施 B	□あざみ野コレクションボラリーVol.13 「CLOTH × OVER 糸と布 日常と生をつづる」 10/8-10/30 □来場者1,604名 □平均満足度4.73(5点満点) ■糸、布を素材として、「縫い」「織り」「刺繡」「染め」などのプロセスを通じて制作を続けるアーティスト3名の作品を展示。遠藤薰、小林万里子、ユ・ソラの3名それぞれの日常感覚が豊かにクロスオーバーする表現の世界を紹介。 【関連事業】 ■出品作家によるクロストーク 遠藤薰、小林万里子、ユ・ソラ/ 聞き手: 佐藤直子(担当学芸員) 18名 10/8 ■ワークショップ「私たちの住んでいる家」おうちのモケイをつくろう 講師 ユ・ソラ 12名 10/2 ■担当学芸員によるギャラリートーク 佐藤直子(担当学芸員) 19名 10/23 ■あざみ野カレッジ企画展関連講座「ルース・アサワの芸術」 講師 沢山遼(美術批評) 28名 10/29		
		●Showcase Gallery 展示=使命1に記載			□展示作業のようすやアーティストインタビューの動画をYouTubeで 公開 計9本 ・梅田宏明、南條健吾、ROZA(ダンスインタビュー) 1本 ・あざみ野コレクションボラリー紹介 1本 ・遠藤薰、小林万里子、ユ・ソラ 3本 ・潮田登久子 1本 ・白井晴幸、瀧健太郎、茂田真史 3本		
		●アーカイブ & アーティストインタビューをWEBで公開	7本	9本 A	■市民のためのプログラム さまざまな内容のプログラムを用意し市民の「やってみたい」に応える講座を開催し、毎回応募数が定員を上回り抽選となる人気の 「オープンスタジオ「着衣クロッキー」「ヌードクロッキー」(1コース4回)		
		●市民のためのプログラム					
		□オープンスタジオ「着衣クロッキー」「ヌードクロッキー」(1コース4回)	5コース 20回 250名	5コース20回 実施 279名 A			
2 現代アートの発信拠点		●企画展「あざみ野コンテンポラリー」					
		□開催 10月	1回	実施 B			
		□来場者数	1,500名	1,604名 B			
		□来場者アンケートによる平均満足度	4.6以上	4.73 B			
		●Showcase Gallery 展示=使命1に記載					
		●アーカイブ & アーティストインタビューをWEBで公開	7本	9本 A			
		●市民のためのプログラム					
		□オープスタジオ「着衣クロッキー」「ヌードクロッキー」(1コース4回)	5コース 20回 250名	5コース20回 実施 279名 A			
					【課題】 現代アートの発信地、またカメラと写真を軸とした事業展開は当館の特徴であり、事業として定着してきましたが、まだまだ地域の市民のみなさんには浸透しているとは言い難い状況が続いています。 使命1、3、4の達成とあわせた課題として、地域へのさらなる周知や周辺のみなさんの来館促進につながる方策を引き続き検討していきます。		
					【更なる取組を期待する点】 ・現代アートの発信地として、・引き続き、企画展やカメラ・写真コレクションの保存・研究・Web公開などの周知方法について、更なる検討を期待します。		

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

3	市民の皆さんのが主体となって文化芸術活動に関わる取組 (使命1:幅広い市民の皆様の「やってみたい!」を応援)	□参加者アンケートによる平均満足度	4.6以上	4.62	B	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>「着衣クロッキー」年3コース(1コース4回) <input type="checkbox"/>「ヌード・クロッキー」年2コース(1コース4回) <p>□平均満足度 4.62(5点満点)</p> <p>※オープンスタジオ「ヌード・クロッキー」については換気と定員数に留意し2年ぶりに再開。</p> <p>□講座 年6コース のべ参加者371名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめての静物デッサン 1コース5回 のべ72名 ・はじめての透明水彩 1コース 5回 のべ69名 ・陶芸 摺き落としと象嵌 1コース6回 のべ87名 ・日本画で季節のモチーフを描く 1コース6回 のべ86名 ・日本画筆ワークショップ 1コース1回 31名 ・ショーケースギャラリー開連ワークショップ 「土の表情を活かした土器づくり」 1コース2回 26名 <p>□平均満足度4.93(5点満点)</p>
		□ワークショップとして講座開催(透明水彩、デッサン、陶芸、写真、絵画技法)	5コース 22回 290名	6講座 25回 371名	A	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>「着衣クロッキー」年3コース(1コース4回) <input type="checkbox"/>「ヌード・クロッキー」年2コース(1コース4回) <p>□平均満足度 4.62(5点満点)</p> <p>※オープンスタジオ「ヌード・クロッキー」については換気と定員数に留意し2年ぶりに再開。</p> <p>□講座 年6コース のべ参加者371名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめての静物デッサン 1コース5回 のべ72名 ・はじめての透明水彩 1コース 5回 のべ69名 ・陶芸 摺き落としと象嵌 1コース6回 のべ87名 ・日本画で季節のモチーフを描く 1コース6回 のべ86名 ・日本画筆ワークショップ 1コース1回 31名 ・ショーケースギャラリー開連ワークショップ 「土の表情を活かした土器づくり」 1コース2回 26名 <p>□平均満足度4.93(5点満点)</p>
		□参加者アンケートによる平均満足度	4.6以上	4.93	B	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>「着衣クロッキー」年3コース(1コース4回) <input type="checkbox"/>「ヌード・クロッキー」年2コース(1コース4回) <p>□平均満足度 4.62(5点満点)</p> <p>※オープンスタジオ「ヌード・クロッキー」については換気と定員数に留意し2年ぶりに再開。</p> <p>□講座 年6コース のべ参加者371名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめての静物デッサン 1コース5回 のべ72名 ・はじめての透明水彩 1コース 5回 のべ69名 ・陶芸 摺き落としと象嵌 1コース6回 のべ87名 ・日本画で季節のモチーフを描く 1コース6回 のべ86名 ・日本画筆ワークショップ 1コース1回 31名 ・ショーケースギャラリー開連ワークショップ 「土の表情を活かした土器づくり」 1コース2回 26名 <p>□平均満足度4.93(5点満点)</p>

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		
使命3 地域コミュニティが抱える課題に対して、文化芸術を通じたアプローチを行うことで、市民の皆さんにこうした課題に気づき、考えを深める契機を創出する。	1 文化芸術を媒介として、分野を越えた協働により地域コミュニティの課題に向き合います	●地域課題に対して、芸術文化の手法によるアプローチの可能性を模索し、他の団体等との協働の中から課題に向き合うきっかけや気付きの機会を提供	協働する団体 5団体	7団体	A	<p>■「あざみ野認知症の人にやさしい街プロジェクト」(やさしい街あざみ野実行委員会)メンバーとしての活動を通じ、施設の周知やイベントの告知、地域が抱える問題について意見交換を行うことができた。</p> <p>■荏田地域ケアプラザの協力により、ケアプラザ通所者に10月の対話型鑑賞会トライアルに参加してもらった。</p> <p>■若年性認知症支援団体GrASP㈱と対話型鑑賞会の開催に向けて話し合いを重ね、2月に実施。終了後に課題の振り返りを共有。</p> <p>■山内図書館と連携し、あざみ野フォト・アニュアル2023紹介パネルを展示期間にあわせて閲覧コーナーに設置し、地域回遊を促進。</p> <p>■山内図書館「りんごの棚」コーナーにフェローアートギャラリーのちらしと紹介パネルを設置。</p> <p>■荏田の慶應義塾横浜初等部にて、図工の授業として「カメラと写真ワークショップ」を初展開。</p> <p>■カラワークショップの成果展を、近隣小学校2校の合同で初開催。当ギャラリーが媒介となり公立と私立の学校の地域でのつながりを創り、関係者の来館を促した。</p> <p>■フェローアートギャラリーのアウトチーチとして青葉区民文化センター・フィリアホール外通路にて作品3点を展示。令和3年度に続き2回目。【再掲】。</p>	【評価できる点】 ・やさしい街あざみ野実行委員会での活動を通じ「地域コミュニティへの課題に対する文化芸術面からのアプローチ」を実現するためのベース作りを積極的に行い、地元の施設やクリニックと協働しながら、「認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会」プログラムの企画・実施に繋がった点を大変評価します。 ・荏田地域ケアプラザや慶應義塾横浜初等部など、近隣団体と積極的に協働の取組を進めたことを評価します。
		□「やさしい街あざみ野実行委員会」への参加、協働によるイベント、勉強会、来館者への活動情報提供	実施	実施	-		
		●財団他施設との協働、連携					
		□横濱ジャズプロムナードとの共催コンサート(ロビーコンサート)	2回	2回実施	B	<p>□横濱ジャズプロムナード連携／横浜音祭り2022との共催 2回 ・JAZZ名盤のオーディオコンサート 9/11 ・みなどみらいスーパービッグバンド 10/23</p>	
		□大佛次郎記念館との共催講座(あざみ野カレッジ)	1回	1回実施	B	<p>□大佛次郎記念館との共催講座 1回 4/17 ・あざみ野カレッジ「聴くには何か 他者の話が聞けなくなるとき」 講師 東畠開人(第19回大佛次郎論壇賞受賞者)</p>	
		●青葉区他施設との協働、連携	実施	実施	-	<p>□フィリアホールとの共催事業 4回 フィリアホールのホール改修期間に3回の出張コンサート等を共催 ・ロビーコンサート(クラリネット、ピアノ、ヴァイオリン) 7/10 ・フィリアホール出張企画 あざみ野サロン 7/20 「歴史を作った女性音楽家たち」 ・ロビーコンサート(サキソフォン・カルテット) 3/12 ・フェローアートギャラリー・エクステンション</p>	
		□フィリアホールとの共催コンサート、トークイベント	3回	4回実施	B		
		●認知症の方と家族のための鑑賞会	1回	2回実施	A	<p>■認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会の開催2回【再掲】 ・「あざみ野コンテンポラリーVOL.13」トライアル鑑賞会 (共催 横浜市荏田地域ケアプラザ) 25名 ・「あざみ野フォト・アニュアル2023」若年性認知症とその家族・介護者のための鑑賞会(協力 GrASP㈱) 30名</p>	
		□参加者ヒアリングの実施	1回	2回実施	A	<p>□振り返りヒアリング実施 都度／関係者と対面</p>	
		□「予約制だよ! 親子のフリーゾーン」「親子で造形ピクニック」参加者への文化芸術参加環境に関するアンケート調査	毎回	実施	-	<p>毎回実施／紙、オンライン</p>	
2 市民が自ら課題に気づき考えを深める契機を創出します	3 センター横浜北との連携をさらに充実させます	□ワークショップ、講座参加者への文化芸術参加環境等に関するアンケート調査	毎回	実施	-	<p>毎回実施／紙</p>	
		□「あざみ野カレッジ」終了後、「生涯学習」に対するアンケート調査	毎回	実施	-	<p>毎回実施／紙</p>	
		●「あざみ野カレッジ」オンライン配信(ハイブリッド型)	1回	1回実施	B	<p>□開催あざみ野カレッジ「ステレオ写真探訪」でzoomによるオンライン配信実施(初) 2/11 オンライン参加 6名</p>	
		●アートソポーター活動再開に向けて準備、再開	実施	実施	-	<p>□「あざみ野こどもぎゃらりい2022 ぞうけいラボ」でアートソポーター活動再開 のべ21名 ■HPでアートソポーター随时募集</p>	
		●フェローアート・ギャラリー = 使命2に記載					
		●フェローアート・ギャラリーエクステンション = 使命2に記載					
		●あざみ野フェローマルシェ 障がいのある人たちの作った食品・雑貨などを販売する場を提供し、交流を支援	年5回 3,000名	6回実施 7,930名	A	<p>□あざみ野フェローマルシェ 6回開催 来場者数: 7,930名 のべ参加団体数: 39団体</p>	
		○あざみ野サロン					
		□ジェンダーをテーマにした講演会等 センター北ほかと共催	年3回 350名 ※うち1回はフィリアホールとの3者共催	3回実施 467名	B	<p>□あざみ野サロン 計2回(自主1回、共催1回) ・VOL.75「歴史を作った女性音楽家たち クララ・ショーマンと幸田延」 152名 7/20 ナビゲーター 浦久俊彦、ヴァイオリン 小林美恵、 ピアノ ジャン・ミッシェル・キム ※フィリアホール企画、フィリアホール、市民ギャラリーあざみ野、センター横浜北の3館連携 ・VOL.76 映画上映「ほけますから、よろしくお願ひします。～おかれりお母さん～」2回 合計 315名 10/22</p>	
		□アートフォーラム17thアニバーサリー	1回 2,000名	1回実施 2,313名	A	<p>■アートフォーラムあざみ野17thアニバーサリー開催 10/22・23 □来場者 計2,313名 ※センター横浜北と共催</p>	
		□WELCOME! ロビーコンサート開催(=使命1に記載)					

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

使命4 文化施設として求められる専門性と、地域施設として求められる役割をふまえ、かつ、地域の様々な資源を有機的に結び付け、地域コミュニティのベースとなる文化的コモンズの形成に貢献する。	1 地域の資源を発掘し、市民とつなぎます 2 地域の様々な担い手とつながる機会を作ります 3 北部地域の文化施設全体が、文化的コモンズの形成に貢献できるよう協働します 4 新たなつながりと活力を生む、「あざみ野河津桜坂文化圏(仮称)」創出	●あざみ野カレッジ「地域資源部門」 □北部4区にまつわる生活・文化をテーマにした講座 ※一部講座をよこはま縁むすび講中として開催 ※使命1-3 再掲	年3回 延べ100名	4回実施 143名	A	<p>□あざみ野カレッジ「地域資源部門」 年4回開催 計143名 地元の地域資源を題材とする講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞くとはなにか~他者の話を聞けなくなるとき 東畑開人 64名 4/17 ・「アナログレコードで聴く ウエストコースト・ジャズ名盤」 渋谷清 30名 9/11 ※協力 アキュフェーズ(株) ・「横浜北部のミュータウン開発と鉄道」 平井誠二(大倉山精神文化研究所所長) 28名 9/24 ・あざみ野フト・アニュアル2023関連企画「ステレオ写真探訪」 日比谷安希子 21名 2/11 	<p>【成果】 “文化芸術を媒介に北部地域の様々な公共施設、教育機関、市民団体、企業、自治会等が相互につながり合う取り組みを進め、協働から地域の活力を生み出す”という使命に対し、昨年度「よこはま縁むすび講中実行委員会」が立ち上りました。今年度も文化庁「INNOVATE MUSEUM」助成金が採択され、当館では6つの事業を「よこはま縁むすび講中」として位置づけ、展開しました。横浜市歴史博物館が中心となって北部4区の文化施設等が連携し、情報交換を行うなかで、新たに「和の(大)文化祭」など協働事業が生まれました。さらにホールがクローズ中の青葉区民文化センター・フィアホールと緑区民文化センター・みどりアートパークとは定期的なオンライン情報交換を通じて関係性を深め、フィアホールとは3回の連携事業、みどりアートパークとはビアレビューの実施や事業視察と、ネットワークの深化が進みました。</p> <p>あざみ野カレッジでは地域企業協力のもと開催した講座を含む4回を開催し、いずれも好評でした。</p> <p>開館記念日である10月にアートフォーラム17thアニバーサリーを開催しました。土日の2日間にイベントやフェローマルシェを集中させ、お祭り感を醸成しました。</p> <p>近隣の神奈川県立麻生養護学校の職業体験の受け入れを行いました。また山内小学校学校運営協議会メンバーとして館長が参加しました。地域の頼れる施設として存在感を発揮しました。</p> <p>昨年に引き続き、横浜市芸術文化プラットフォーム「リサイクルアート」を使用する資材を地元企業から無償提供いただきました。 R5年度には、この経験をもとに資材提供会社の新人教育講座の実施を予定しています。</p> <p>【評価できる点】 ・北部4区の文化施設が連携して実施している「よこはま縁結び講中」事業は、新たに和の文化祭を開催し、ホール休館中の青葉区と緑区民文化センターとの連携事業を進めるなど、日頃の情報共有の成果が表れ、連携が深化したことを評価します。 ・あざみ野カレッジ「地域資源部門」は、地元の地域資源を題材に連携先を広げて実施回数を増やし、多様なテーマを取り入れ魅力ある学びの場を提供できました。</p>
		□地元大学等と事業連携	1回	未実施	B	<p>■横浜美術大学、横浜国立大学にエクステンション講座を提案(未実現)</p> <p>□学生ボランティアに参加による事業 1回 男女共同参画センター・横浜北との協働で、女子美術大学アートプロデュース表現領域3年生の「ミュージアムスタディⅡ」演習において、アートプロジェクトを提案。企画展「あざみ野コンテンポラリー」で学生がTwitterで展覧会情報を毎日発信。</p>	<p>【評価できる点】 地元大学との連携について、更なる模索を期待します。</p>
		□あざみ野フェローマルシェ(=使命2に記載)					
		□アートプラザのお弁当やさん開催による地産地消促進と地元起業家支援	30回	31回実施	B	<p>□北部地域で主に活動するキッチンカー・移動販売車のアート・ラザでの出店 31回</p> <ul style="list-style-type: none"> ■新規定期出店 1店 WABI-SABI ■イベント初出店 3店 ハンドルスバーゲン(アイスクリーム)、香老舗松栄堂(お香)、萬駄屋(野菜、調味料) ■定期出店撤退 MonaMonaキッチン、2バナネイラ 	<p>【更なる取組を期待する点】 地元大学との連携について、更なる模索を期待します。</p>
		□アートフォーラム 17thアニバーサリー(=使命3に記載)					
		○青葉区主催事業への共催					
		■あおば美術公募展 共催・協力	実施	実施	-	<p>□青葉区主催事業への共催 実行委員会参加、会場設営・運営協力を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおば美術公募展 7/9-17 ・青葉区民芸祭 11/29-12/12 	<p>【課題】 地元大学連携については、様々な提案を試みてはいますが、まだ実現には至っていない状況です。引き続きの調査、開拓が必要です。</p>
		■青葉区民芸祭 協力	実施	実施	-		
		●地元企業との連携によるこども向けワークショップ・教育プラットフォーム事業の展開	1回	2回実施	B	<p>□横浜市芸術文化プラットフォーム等で使用する資材を地元企業の古川電工パワーシステムズ株から提供を受け実施 2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれが丘小6年生 7/6, 7, 8 リサイクルアート<よこはま縁むすび講中事業> ・すみれが丘小5年生 1/18, 19 リサイクルアート<教育プラットフォーム事業> 	
		○よこはま縁むすび講中事業の実施					
		□小学校カメラワークショップ・都筑太鼓ワークショップ・外国人家族のフリーゾーン参加サポート・あざみ野カレッジ講座・みどりアートバークリー事業	5件	6件	A	<p>■文化庁「令和4年度Innovate Museum事業」助成を受け、北部4区の文化施設が「よこはま縁むすび講中実行委員会」を組織し地域資源の発見・発信を行う事業を継続して展開 □よこはま縁むすび講中事業として実施した当館事業 6件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校カメラワークショップ ・写真と俳句展 ・すみれが丘小5年生リサイクルアート・ワークショップ ・ロビーコンサート「都筑太鼓」 ・みどりアートバーク土絵出張展示協力 ・外国人親子のためのフリーゾーン ・あざみ野カレッジ「ステレオ写真探訪」オンライン配信 ■横浜市歴史博物館主催「都筑・青葉・港北 和の(大)文化祭」の 「和太鼓をたたこう!」企画協力 ■みどりアートバーク 土絵の巡回展示【再掲】 ■みどりアートバークとお互いのダンス事業についてピアレビューのトライアル実施 ■みどりアートバーク(長津田)、フィアホール(青葉台)との月1回の3館オンラインミーティングを開催し、情報共有・意見交換の場をスタート ■「アートフォーラム通り」動画の公開継続 あざみ野駅をはじめ、地区センター、メレセデスベンツあざみ野等近隣の15の施設・店舗を紹介するYouTube動画 ■山内図書館 広報連携(フォトアニュアル、フェローアート) ■荏田地域ケアフロアの協力による事業開催 ■慶應横浜初等部、山内小でのワークショップ、展示開催 ■あざみ野第一小「横浜市小学校体育実技発表会」に向けてダンス・クリニック講師を紹介 ■職業体験受け入れ 12/6, 7 神奈川県立麻生養護学校高等部生徒2名 	

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況			評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命5 利用者本位の運営を行うとともに、文化施設としての専門性を発揮し、北部地域の市民の皆さんに親しまれる施設となる。	1 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底	■感染防止ルールの徹底(手指消毒、検温、マスク) ■三密を回避する展示のアドバイス ■キャッシュレス決済を導入継続	実施	実施	-	■利用者と打ち合わせ時に横浜市文化施設ガイドラインの確認 ■交通系、クレジット、電子マネー、PayPay、楽天ペイ導入済み ■親子のフリーゾーンでは支払の約60%がPayPay利用	【評価できる点】 ・新型コロナウイルス感染症対策に伴う施設内の消毒等の対策や、定員の変更、貸館利用者へのきめ細やかな調整など迅速かつ柔軟に対応いただきました。そのため大きなトラブルが発生することなく施設の運営を進めることができました。 ・利用者からのアンケートやヒアリング内容を丁寧に汲み取り、施設運営に活かした点を評価します。	【評価できる点】 ・新型コロナウイルス感染症対策に伴う施設内の消毒等の対策や、定員の変更、貸館利用者へのきめ細やかな調整など迅速かつ柔軟に対応いただきました。そのため大きなトラブルが発生することなく施設の運営を進めることができました。 ・利用者からのアンケートやヒアリング内容を丁寧に汲み取り、施設運営に活かした点を評価します。
		■施設利用者・来館者にアンケート実施し、スタッフに情報共有		実施	実施	■アンケート ・展示室、利用終了日までに実施 ・アトリエ:継続的利用団体は年度末、単発利用団体は都度実施 ・イベント来場者:アンケート配布またはQRコードによるWEB上でアンケート回答		
		■展示室・アトリエ施設利用者にヒアリング		実施	実施	■アンケートデータは質問項目を集計しイベント開催から1週間以内にスタッフ全員に回覧して情報共有を図った。 ■意見聴取(ヒヤリング) 展示室利用者は打ち合わせの際に実施 アトリエ利用者はアンケートに替えて実施		
	2 利用者ニーズの把握	■公平・公正な施設貸出	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
		■専門性の高いサポート、ホスピタリティを提供	実施	実施	-	■記載のとおり実施。利用団体の高齢化を考慮し 展示および撤収作業について安全な作業への目配りを行った。		
		■新規貸館利用者の創出に向けインターネットを活用	実施	実施	-	■HP、SNSを活用し定期的に施設情報を発信 ■施設貸出案内ちらしを配架		
	3 施設貸出の考え方	■展示室:1週間単位で利用受付	実施	実施	-	■展示室:1週間単位(火曜日～月曜日、平成28年10月に改定、最長2週間まで)で利用を受付 ※利用まで3か月を切る空室については、日単位で貸出を実施。		
		■時期の迫った空き室については1日単位で受付	実施	実施	-	■空き情報を即時ホームページで公開 ■感染症の状況と利用者の利便性に配慮し、アトリエの利用抽選会は来館ではなく事前希望を聞いて集約、重複案件のみ抽選会実施に変更		
		■空き情報を即時ホームページ上で公開のほか、SNSで広く情報発信する。	実施	実施	-	■専門性に基づいた的確なアドバイスの実施		
	5 利用者へのコミュニケーションとサポート	■専門性に基づいた展示構成アドバイス	実施	実施	-	【課題】 展示室の利用は、令和3年度と比べると回復していますが、今後の、利用者の高齢化による利用率の低下が想定され、新規利用者の開拓が必要な段階になってきています。 施設利用のルールは踏まえつつも、積極的な貸出し提案や、共催の可能性、利用者のニーズとの折り合いなどを探していくことが課題です。	【更なる取組を期待する点】 ・利用者の高齢化による利用団体の活動力低下に伴う施設利用への影響についての対策の検討を進めていただくことを期待します。	【更なる取組を期待する点】 ・利用者の高齢化による利用団体の活動力低下に伴う施設利用への影響についての対策の検討を進めていただくことを期待します。
		■コンシェルジュとして相談に応じる	実施	実施	-			
		●利用団体に対しての広報協力	実施	実施	-			
		■SNS、ホームページでの情報掲載	実施	実施	-			
		■「ヨコハマ・アートナビ」、「マグカル」等への情報提供	実施	実施	-			
		■館内ラックにちらし掲出	実施	実施	-			
		■情報誌『アートあざみ野』への情報掲載	実施	実施	-			
		■アトリエ継続的利用団体へ備品預かりボックス貸出	実施	実施	-			
	6 文化施設としての専門性を発揮するための人材配置とその育成	■財団人材マネジメント・ポリシーを遵守	実施	実施	-			
		■事業担当と施設運営担当について、適性とバランスを考え配置	実施	実施	-			
		■OJT及び各種研修による事業担当職員及び施設運営担当職員の育成	実施	実施	-			

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況			評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	1 施設管理・環境維持・警備等一共有部分について	■新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底(=使命5に記載)					【成果】利用者の皆さんに安心・安全で快適な場を常に提供するために、センター横浜北・設備管理会社である西田装美、警備担当者と週一回の定期ミーティングを行い、施設の日常的な環境維持や予防的修繕対応に努めました。 スタッフ全員による実践的な防災訓練等によって、日々の防災意識を高めました。 開館17年目を迎えたエントランス部分の重篤な雨漏りを初め施設の劣化、故障が発生が見られ、逐次横浜市との情報共有を行いました。	【評価できる点】 ・同建物内に設置された男女共同参画センター横浜北の指定管理者及び設備管理会社とも定期的なミーティングを行う等、密に連携を取りながら、効率的に運営しました。
		□センター横浜北・管理委託会社との「管理合同ミーティング」を開催	月3回以上	実施	- □センター横浜北・管理委託会社である西田装美との3者による管理合同ミーティングを毎火曜日に開催			
		■法令を遵守し必要な保守点検や測定の実施	実施	実施	- ■記載のとおり実施			
		■職員の日常的な目配りにより不具合の早期発見	実施	実施				
	2 施設管理－専有施設について	●展示室の維持管理						
		□壁面の塗装チェック、必要箇所の塗り直し	年1回	1回実施	- □展示室壁面の塗装チェック・必要箇所の塗り直し 年1回 □展示室可動パネルの保守点検 年1回 □展示室可動パネルの消耗品交換、稼働状況のチェック、壁面の補修／随時展示室貸出備品の点検・整備／随時高所作業車保守点検／年1回			
		□可動パネルの保守点検	年1回	1回実施	- ■不具合の発生には随時対応 ・壁面塗装 1/23 ■修繕、保守点検を実施(専有部) ・展示室入り口中央引き戸吊り車交換 9/27 ・建物正面バナー照明ライト更新(ギャラリー部分) 12/26 ・バッジインジケーターによる測定 12/25-27、1/9-11			
		□可動パネルの消耗品交換、稼働状況のチェック、パネル壁面の補修	随時実施	実施	- 10/24 マンリフト保守点検 10/24 ・ポルティリフト保守点検 3/11			
		□貸出備品の点検・整備	随時実施	実施				
		□高所作業車保守点検	年1回	1回実施				
		●アトリエの維持管理						
		□壁面のリタッチ	年1回	1回実施	- ■貸出附帯設備・音響設備の点検、整備／随時 □陶芸用電気窯保守点検については令和4年3月背設置につき実施せず □土練機、パネルソー保守点検／利用状況により2年に1回 12/12 1回 ■修繕、保守点検を実施 ・アトリエ流し場混合水栓水漏れ修理 11/28 ・パネルソー保守点検 12/12 ・アトリエ控室火災感知器増設、アトリエカーテン移設工事 12/26 ※消防法による			
		□附帯設備・音響設備の点検、整備	随時実施	実施				
		□陶芸用電気窯保守点検	年1回	未実施				
	3 横浜市所蔵カメラ・写真コレクション(収蔵庫)	□土練機、パネルソー保守点検	2年に1回	実施			【成果】横浜市所蔵カメラ・写真コレクションについては、良好な状態で次代に引き継ぐよう、最適な管理を行いました。 【課題】収蔵庫の温湿度を調整しているパッケージエアコンの制御機器が耐用年数を超えていたため近々の対応が不可欠です。	
		●その他(搬入口・荷捌室・作品保管庫等)						
		□衛生設備(新ガス消火設備、連結散水設備等)保守点検	年2回	実施	- ■衛生設備(新ガス消火設備、連結散水設備等)保守点検／業務の基準の通り 昇降機設備保守点検／業務の基準の通り			
		□昇降機設備保守点検	月1回	実施	-			
		●収蔵庫内環境の維持						
		□通年で温度20°C±2°C、湿度50%±2%を維持	実施	実施	- □通年で温度20°C±2°C、湿度50%±2%を維持 pH値を定期的に測定し、結果に応じケミカルフィルター年2回交換			
		□pH値を定期的に測定し、結果に応じケミカルフィルター交換	年2回	実施	- □pH値を定期的に測定し、結果に応じケミカルフィルター交換 □文化財害虫生息調査／年8回実施 □担当学芸員ほか職員による定期的な清掃／月1回 □担当学芸員の立会いのもとに庫内の機器、設備の点検を実施月1回			
		□文化財害虫生息調査	年8回	8回実施	- ■収蔵庫担当による日々の庫内点検実施(目視もしくは監視カメラ) □収蔵庫設備の保守点検 ・9月/3月 パッジインジケーターによる測定、フィルター交換 ■地震発生時は即状況を確認し横浜市と財団に報告 ■コレクション作品管理貸出、熟覧、画像提供 ・4/24-6/27田市立国際版画美術館で開催の「版画と写真」へ 所蔵品51点を貸出【再掲】			
		□担当学芸員ほか職員による定期的な清掃庫内の機器、設備の点検を実施	月1回	実施				
		■収蔵庫担当による目視あるいは監視カメラによる日常点検	実施	実施				
		□収蔵庫・展示室の空調設備の保守点検	年1回	実施				
		■コレクション作品管理、貸出、熟覧、画像提供	随時実施	実施				

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況			評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	4 維持保全・修繕について	●計画的・予防的修繕の検討・実施 ■共有部:センター横浜北および設備管理会社と連携 ■専有部:今後必要となる修繕項目について検討し、1件60万円を超える事案に関してはモニタリング等を通じて設置者に情報共有・相談	随時	実施	■共有部:センター横浜北・設備管理会社と連携 ■専有部:今後必要となる修繕項目について検討し1件60万円を超える事案に関してはモニタリング等を通じて設置者に情報共有・相談 記載のとおり実施 ■緊急を要する修繕 業務の基準に則り速やかに横浜市、関係各所へ連絡・報告を行う。 運営に支障がないことを最優先に応急処置を取りつつ、最適な対応を検討、実施 ・エントランス天井漏水について、12月に横浜市建築局の下見を受け緊急度の高い案件として令和5年度に横浜市から屋上防水工事を実施予定	-	【成果】 共有部、専有部、各所の修繕について男女共同参画センター横浜北協議の上、適切に対応しました。 【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施した点を評価します。不具合発生時には、センター北及び設備管理会社と連絡調整を行い、市側とも迅速な状況共有が行われました。	【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施した点を評価します。不具合発生時には、センター北及び設備管理会社と連絡調整を行い、市側とも迅速な状況共有が行われました。
		●緊急を要する修繕 速やかに横浜市、関係各所へ連絡・報告を行う。 運営に支障がないことを最優先に応急処置を取りつつ、最適な修繕を実施	随時	実施		-		
	5 適正な備品の管理	●備品管理の適正化 ●物品管理票(シール)の表記見直し ●物品台帳を補足する写真帳の導入検討	随時	実施	■物品管理票(シール)添付 ■物品台帳を補足するため写真データ簿作成 随時	-		
	6 棚卸の実施	□物品棚卸を実施し台帳と突合	1回	実施	□棚卸の実施 10月 1回	-		
	5 事故防止・防火防災・保険・感染症対策等	■横浜市ガイドライン等に準じたコロナウイルス感染症対策の徹底 □館内での緊急時にスマーズに対応できるよう、スタッフの研修実施	随時	実施	■横浜市によるガイドラインに沿った対応 ■講座・ワークショップ参加費の支払いにキャッシュレス決済(クレジットカード・電子マネー・交通系マネー・PayPay)導入継続 ■自動換気装置の設置	-		
		■AEDの設置	設置	実施	■来館者の怪我、急病や多目的トイレの緊急呼出等、異常発生があれば、センター横浜北・ギャラリーあざみ野の職員1名ずつが即時に急救し対応。 ■救急要請にスマーズに対応できるよう、スタッフの研修を実施し、全員が研修受講済み。 ・11/15 AED研修開催 ■事故発生の原因を調査、報告を随時行った	-		
		■事故発生時の速やかに通報と、原因調査	随時	実施		-		
		●防火防災 センター横浜北、設備管理会社と協働して、アートフォーラム自衛消防隊を組織	実施	実施	■センター北、設備管理会社とともにアートフォーラム自衛消防隊を組織 ・11/15 第1回 合同防災訓練、AED研修 ・3/7 第2回 合同避難訓練、HUG研修	-		
		□センター横浜北との合同防災訓練	年2回	実施		-		
	6 災害時対応－地域に頼られる公共施設として	■施設賠償保険に加入 ■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険等については、個別に適正な保険を契約	実施	実施	■センター横浜北と協議の上、適切な施設賠償保険に加入 ■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険等については、個別に適正な保険を契約	-	【課題】 開館17年が経過し、経年劣化による修繕や設備の不具合発生の増加、修理部品の欠品などが生じるようになってきました。日常の保守点検、目視確認を通じてタイムリーに対処できるよう努めるとともに、大規模な修繕計画の検討が必要です。 とりわけ安全に関わるもの、カメラコレクションの維持管理に関わるものについては、早めに対策を検討すべきと考えます。	【更なる取組を期待する点】 ・引き続き日常の保守点検や定期点検、適切な修繕等により施設の維持管理に努めてください。
		□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練	年1回	実施	□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 1回 ・HUG(避難所訓練ゲーム)研修 青葉区総務課職員による出張講義 3/7	-		
		■近隣施設と日常からネットワークを構築し、地区全体での防災力強化に努める	随時	実施	■スタッフ全員が救急救命研修受講済み	-		
	7 業務計画・報告および評価	■飲料自動販売機1台に災害用ベンダーを導入	随時	実施	■1F自販機1台を災害用ベンダーとして契約締結	-		
		■事業計画書・事業報告書の作成・提出	実施	実施		-		
		■日報・月報の作成、月間業務報告	随時	実施		-		
		□モニタリングの開催	月1回	実施		-		
		□業務評価(自己評価)	実施	実施	■指定管理第4期中間評価対応 ・選定評価委員会開催 1/8	-		

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況				
Ⅱ 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	評価	
施設運営及び組織運営	1 専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	■人材配置 館長:1人、副館長:1人、職員:8人、 臨時職員:3~5人	配置	配置	-	館長4人 副館長4人 職員8人	自己評価	行政評価
	2 適切かつ効果的な勤務体制を確立	■勤務体制 早番(8:45-17:30)2名 遅番(12:30-21:15もしくは11:00-19:45)2名	実施	実施	-	□勤務体制について 基本:早番(8:45-17:30)2名 遅番(12:30-21:15もしくは11:00-19:45)2名 ※全職員によるローテーション制 ※時短勤務職員2名	【成果】 記載のとおりに実施しました。 育児短時間勤務職員を含め、在宅勤務の導入など柔軟な勤務環境の構築に努めました。	【評価できる点】 ・適切な人材の配置、効率的な勤務体制の実行により、安定した施設運営が継続された点を評価します。
		■事業や貸館の繁閑に応じてシフトを組み、ワークライフバランスに配慮した勤務と効率的な運営を両立	実施	実施	-	■記載のとおり実施	【課題】 職員の能力にあった業務内容や業務量の調整を注視しワークライフバランスに配慮していきます。	
	3 切れ目のない責任体制の維持	■館長・副館長不在時の代行者を定め、責任体制を明確化	実施	実施	-	□リモートデスクトップ導入職員 3名	【成果】 記載のとおりに実施しました。	
必要人材の配置及び能力担保	1 専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	■適切に配置	実施	実施	-	■記載のとおり配置	【課題】 職員の専門性やスキルの更なる向上を図るために、積極的に視察や研修に参加する機会を設けたいと考えています。	
		■事業系及びコレクション担当:美術に関する専門教育を修め、学芸員の資格を有する職員または鑑賞・造形教育エデュケーター、もしくは両者を志望する職員を配置	実施	実施	-	■記載のとおり配置		
		■コレクション担当:写真・映像を専門とする学芸員を配置	実施	実施	-	■記載のとおり配置		
		■指定管理者研修会等を通じて横浜市の施策への理解・共有をはかる	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
		■財団コンプライアンス委員会の情報を共有し、職員・スタッフのコンプライアンス意識を強化	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
	1 指定管理者としてのミッションの理解	■感染症予防対策の徹底	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
		■個人情報は規程及びマニュアルに基づき適切に取り扱います。	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
	2 適正な個人情報保護・情報公開	■すべての人に開かれた施設として公平・公正な施設運営のため、人権尊重の取組みを大切にします。	随時	実施	-	□横浜市主催の人権研修に参加し、施設内で共有		
		■ゴミを適切に分別、排出量を抑制／ゴミの持帰り原則を徹底	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
	3 人権尊重	■電気とガスの使用量を極力抑制	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
		■物品購入、委託 アーティスト指定、市外業者のみが取り扱う業務を除き 市内業者への発注に努める	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
横浜市の重要施策を踏まえた対応	4 環境への配慮	■横浜市主催の人権研修オンライン受講「LBGTを知る」 受講 2/26 館内で情報共有	1回	実施	-	■記載のとおり実施		
		■ゴミを適切に分別、排出量を抑制／ゴミの持帰り原則を徹底	実施	実施	-	■記載のとおり実施		
	5 市内中小企業への優先発注	■電気とガスの使用量を極力抑制	実施	実施	-	■記載のとおり実施 □フードドライブへ参加 10/1-10/31 430点、48.9キログラム／青葉フードシェアネットワークへ寄贈 ※センター北と協働		
		■物品購入、委託 アーティスト指定、市外業者のみが取り扱う業務を除き 市内業者への発注に努める	実施	実施	-	■記載のとおり実施		

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R4年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
カメラ・写真コレクションの適切な収蔵、保管	1 貴重なコレクションを良好な状態で次代に引継ぎ、最大限活用するために、適切な収蔵、保管にあたります。	□収蔵庫内環境の維持	温度20°C±2°C、湿度50%±2%実施	実施	- ■記載のとおり実施	【成果】記載のとおりに実施しました。 【課題】前述した通り収蔵庫の温湿度を調整しているパッケージエアコンの制御機器が耐用年数を超えていたため近々の対応が不可欠です。	
		■pH値を定期的に測定し、結果に応じたケミカルフィルターを設置	実施	実施	- ■記載のとおり実施		
		□文化財害虫生息調査	年8回	8回実施	B ■記載のとおり実施		
		□庫内点検、定期的な清掃を実施	月1回	実施	- ■記載のとおり実施		
事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取組	1 アートフォーラムでは、全職員(横浜市民ギャラリーあざみ野、センター横浜北、管理委託会社)が、日常的に危険箇所や不審者等を早期に発見し、対処します。	■各種マニュアルの必要に応じた見直し・更新	随時	実施	- ■記載のとおり実施	【成果】記載のとおりに実施しました。 【課題】施設の維持管理に関する課題は前述のとおりですが、災害対応は常日頃からの構造が重要なため、訓練時以外でも月次ミーティングなどの機会を通じ注意換気していきます。	
		■危機管理マニュアルを見直し必要に応じて更新	随時	実施	- ■記載のとおり実施／更新なし		
	2 緊急時には「利用者の安全第一」と「迅速さ」を基本方針として対応します	■常に全職員がマニュアルを理解している状態をめざす	実施	実施	- ■帰宅困難者一時滞在施設受け入れマニュアルの備え置き		
		□センター横浜北との合同防災訓練 実施回数(再掲)	年2回	実施	- ■記載のとおり実施		
		□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 実施回数(再掲)	年1回	実施	- ■記載のとおり実施		
Ⅳ収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 利用料金設定及び割引、減免の考え方	1 展示室・アトリエともに、現在の利用区分(単位)・料金が定着しているため、従来の設定を踏襲します。	■従来の料金体系に沿った利用料設定を継続	実施	実施	- ■記載のとおり実施	【成果】記載のとおりに実施しました。 【課題】	
		□横浜市主催事業:50%減免	実施	実施	- ■記載のとおり実施		
	2 割引、減免制度については、横浜市民ギャラリ一条例・同施行規則に従って運用します。	□横浜市共催もしくは実行委員会に参加する事業:30%減免	実施	実施	- ■記載のとおり実施		
		□ギャラリーあざみ野共催及び協力事業:主催者との協議により30~100%減免	実施	実施	- ■記載のとおり実施		
		■アトリエ利用の夜間割引・学生割引	継続実施	実施	- ■記載のとおり実施		
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	1 自主事業の一部については、指定管理料を充当せずにいます。	■収支ゼロで行う自主事業 クロッキーを中心とした市民プログラム講座	8本	11本実施	A □市民のプログラム事業 11本実施 収支プラスで執行	【成果】記載のとおりに実施しました。 市民のアトリエ事業に関しては、収支バランスがプラスになるよう企画・執行しました。 事業に対する助成金は5件申請し4件が採択されました。 【課題】社会情勢により光熱水費、人件費が大幅に上昇し経費を圧迫しています。今後の施設運営、事業の遂行にますます大きな影響が考えられます。	【評価できる点】 ・補助金獲得に向けて積極的に取り組み、4件の補助金が採択され活用することにより事業の充実に繋がった点について評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・今後も効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
		□展示室およびアトリエの利用料金収入	7,880千円	¥7,774,550	B □利用料金収入(施設・駐車場等) ・施設利用料 7,774,500円(未達) ・駐車場利用料 3,933,700円 ・自動販売機手数料 463,868円		
	3 助成金・協賛金、現物協賛の獲得	□外部助成金申請件数	3件以上	4件	A □事業に対する助成金 4件(申請5件) 計2,581,000円 ・野村財團 ・文化庁・芸術文化振興基金 ・文化庁・障害者等の文化芸術活動推進助成金 ・横浜アーツフェスティバル実行委員会(横浜音祭り) □よこはま縁むすび講中実行委員会として申請 879,980円相当 (文化庁Innovate Museum事業) □その他の助成金 2件(申請2件) 計190,000円 ・文化庁「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」助成金 ・第1次および第2次 □寄付金 1件 ・風越建設 □情報誌「アートあざみ野」広告掲載料収入 3口 105,000円 ■「あざみ野こどもぎゃらり2022ぞうけいラボ」に対する現物協賛 ・養生カラーテープ提供 寺岡製作所 ・キットバス提供 日本理化工業		
		□助成金・協賛金・広告料の外部資金	50万円以上	2,581,000円	A		
		■センター横浜北と協力し、施設管理委託費を適切に管理	前年度並み	実施	- ■記載のとおり努力		
VI PDCAサイクルの確実な運用	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3 経費削減等効率的運営の努力	4 経費削減・効率的運営の努力	□業務日報の作成(再掲)	休館日除く毎日	実施	- ■記載どおりに実施	【成果】記載の通りに実施しました。 【課題】	
		□月次報告書の作成・モニタリング実施(再掲)	月1回	実施	-		
		□事業計画書・事業報告書の作成(再掲)	1回	実施	- □事業計画書・事業報告書の作成 各1回		
		□完了報告書の作成	1回	実施	- ■完了確認表(自己評価表)により事業報告書を補完		
VII その他	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市民の生命と安全を守ることを第一義として、適切な保険に加入し、万一に備えます。	2 関係法令を順守し、公的機関としての役割を果たします。	■施設設賠償保険への加入(応分負担)(再掲)	実施	実施	- ■記載どおりに実施	【成果】記載の通りに実施しました。	
		■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険契約については個別に契約	実施	実施	- ■記載どおりに実施		
		■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に注意	実施	実施	- ■記載どおりに実施		
		■事故や不具合時は速やかに横浜市・財団事務局に報告し共有	実施	実施	- ■記載どおりに実施		

令和4年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者完了確認表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	特記(提案事項要旨)	R4年度計画		実施状況		評価
		達成指標	目標	実績	説明	
その他						
	1					【成果】
評価項目	特記(提案事項要旨)	R4年度計画	達成指標	実施状況	説明	評価
総括						
	1					<p>アフターコロナの在り方を模索しつつ、効果的な事業執行および施設運営を目指し、第4期指定管理提案に掲げた「6つの使命」に沿った事業を、特色を打ち出しき要素でできました。</p> <p>本年度の特筆すべき取り組みは文化庁助成金による「認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会」です。社会全体で喫緊の課題である地域の高齢化問題にアートを通して向き合うプログラムであり、高齢者等が美術館やギャラリーにかけて体験をするすることを、日常の楽しみとして享受するというもので、アートの可能性とギャラリーの活動意義を地域のなかで実感していく事業になりました。当館らしさを持長づける3つの企画展は、すべて目標来場者数を上回りました。また映像文化の発信として開催する小学生写真ワークショップに、新たに慶應義塾横浜初等部の参加を得たこと、文化庁Innovate Museum助成による「よこはま縁むすび講中」事業を昨年に引き続き実施したことにより、教育機関や北部文化施設とのさらなる連携を築きました。初めての試みとして「あざみ野力レッジ」をオンライン開催したことでも成果として挙げられます。WEBのリニューアルを行い、スマホ対応を実装したほかインスタグラムを開始し館の発信力を強化を図りました。管理面では遺漏ない運営に努力しましたが、下半期の光熱水費の高騰があり収支が圧迫されている状況です。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響に対応しながら事業を実施し、あざみ野という立地や地域特性も活かした企画を通して、地域の皆さんに身近な場所で文化芸術の活動の機会や発表の場、鑑賞の機会を安定して提供した点を評価します。</p> <p>コロナ禍以前の状況に戻りつつある中、今後も継続、深化することで、文化芸術を通したコミュニティの活性化に資することを期待します。</p> <p>施設運営では、男女共同参画センター横浜北と連携を図り、複合施設として適切な維持管理を行うことができました。</p> <p>認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞プログラムなど社会課題に対する意欲的な取組に着手したことの大変評価します。</p> <p>地域団体や他施設との連携、安定した施設運営を継続するとともに、今後も「6つの使命」に沿った施設の特性を活かした魅力ある事業を引き続き実施してください。</p>